

あ 翔

あめつちほしそらやまかはみねたに
くもきりむろこけひといぬうへすゑ
アメツチホシソラヤマカハミネタニ
クモキリムロコケヒトイヌウヘスエ
天地星空山川峰谷雲霧室苔人犬上末
安以宇衣於加幾久計己左之寸世曾太

- ABCDEFGHIJKLabcdefghijkl0123456789,.,!?*
- ABCDEFGHIJKLabcdefghijk0123456789,.,!?*

36Q / 48H

或曇った冬の日暮である。
私は横須賀発上り二等客
車の隅に腰を下して、ぼ
んやり発車の笛を待つて

18Q / 28H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀
発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼ
んやり発車の笛を待つていた。とうに
電燈のついた客車の中には、珍らしく
私の外に一人も乗客はいなかった。外
を覗くと、うす暗いプラットフォーム
にも、今日は珍しく見送りの人影さえ
跡を絶って、唯、檻に入れられた小犬

12Q / 20H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の
隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つていた。とう
に電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も
乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォーム
オムにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、
唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え
立てていた。これらはその時の私の心もちと、不思議な
位似つかわしい景色だった。私の頭の中には云いようの
ない疲労と倦怠とが、まるで雪曇りの空のようなどんよ

28Q / 36H

或曇った冬の日暮である。私は横須
賀発上り二等客車の隅に腰を下して、
ぼんやり発車の笛を待つていた。と

18Q / 28H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の
隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つていた。とう
に電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も
乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォーム
オムにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、
唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え

12Q / 20H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀
発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼ
んやり発車の笛を待つていた。とうに
電燈のついた客車の中には、珍らしく
私の外に一人も乗客はいなかった。外
を覗くと、うす暗いプラットフォーム
にも、今日は珍しく見送りの人影さえ
跡を絶って、唯、檻に入れられた小犬
が一匹、時々悲しそうに、吠え立て
ていた。これらはその時の私の心もちと、